

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 9月28日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第275233号

出 願 人

Applicant (s):

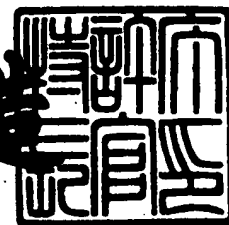
三洋電機株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

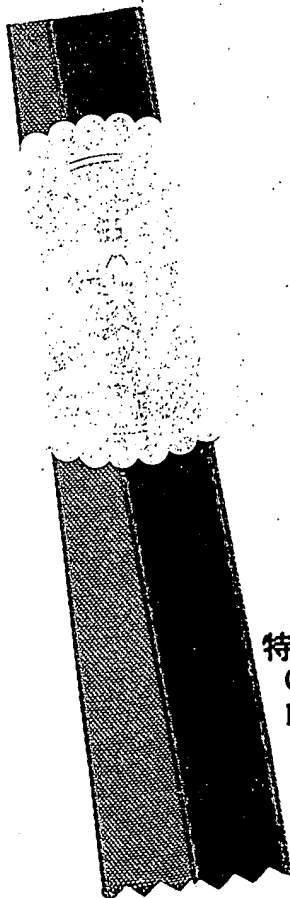
2000年10月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3082101



【書類名】 特許願

【整理番号】 HKA99-0001

【提出日】 平成11年 9月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61J 3/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 富士本 宜意

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 小野 公人

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 桜井 哲男

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会
社内

【氏名】 小佐野 元彦

【特許出願人】

【識別番号】 000001889

【氏名又は名称】 三洋電機株式会社

【代理人】

【識別番号】 100098361

【弁理士】

【氏名又は名称】 雨笠 敬

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 020503

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9112807

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 錠剤分割機

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被処理錠剤を所定位置にて分割する錠剤分割機において、
回転して前記被処理錠剤を切断するための回転刃と、
前記被処理錠剤を所定距離移動させることにより、当該被処理錠剤の長手方向
が移動方向に対して直交するよう整列させる整列手段と、
この整列手段にて整列された前記被処理錠剤をその長手方向から挟持すること
により、前記回転刃に対して当該被処理錠剤の位置を合わせる挟持手段と、
この挟持手段にて位置合わせされた前記被処理錠剤を前記回転刃まで搬送する
搬送手段とを備えたことを特徴とする錠剤分割機。

【請求項 2】 被処理錠剤を所定位置にて分割する錠剤分割機において、
回転して前記被処理錠剤を切断するための回転刃と、
円弧状の通路を移動させることにより、前記被処理錠剤の長手方向が移動方向
に対して直交するよう整列させる整列手段と、
この整列手段にて整列された前記被処理錠剤を落下させ、被処理錠剤の長手方
向が落下方向に対して直交するよう姿勢を修正する姿勢修正手段と、
この姿勢修正手段にて姿勢を修正された前記被処理錠剤をその長手方向から挟
持することにより、前記回転刃に対して当該被処理錠剤の位置を合わせる挟持手
段と、
この挟持手段にて位置合わせされた前記被処理錠剤を回転ローラ及びバネによ
り挟持して前記回転刃まで搬送する搬送手段とを備え、
前記回転刃による切断時に前記被処理錠剤に加わる力が、前記回転ローラに作
用するように前記回転刃と搬送手段の相対位置及び回転刃の回転方向を設定した
ことを特徴とする錠剤分割機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、病院や調剤薬局などの錠剤を多量に取り扱う機関において、例えば

処方箋に基づき、患者に対して錠剤を分割して提供するために用いられる錠剤分割機に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来より病院や調剤薬局においては、処方箋に基づき患者に錠剤を提供する際、一錠では過剰となる処方の場合や飲みにくい場合などには、錠剤を分割して提供するようにしている。この場合、一錠の錠剤を分割する方法として最も簡単な方法は、手作業にて錠剤を切断することであるが、硬い錠剤を切断する作業はきわめて面倒且つ困難であり、破砕してしまう場合も多い。

【0 0 0 3】

また、一錠を等分する際には切断後の分量が正確に同量とならなければならないが、係る手作業では切断後の分量の精度も極めて低くなる欠点があった。

【0 0 0 4】

【発明が解決しようとする課題】

そこで、近年では例えば実開平 3 - 1 1 4 2 4 1 号公報や特開平 2 - 2 9 2 5 7 号公報の如き自動分割機が開発されて来ている。しかしながら、従来の分割機は、対向するベルトによって左右から錠剤を挟持し、上下に動作される薄刃カッターまでベルトで搬送する機構であったため、円形錠剤の場合には問題無いものの、楕円形（或いは断面長円形）の錠剤の場合には対応することができなかった。

【0 0 0 5】

即ち、係る楕円形の錠剤の場合には、左右のベルトで正確に挟持することができないため、搬送中の錠剤の長手方向の向きが一定とならなくなる。そのため、カッターまで搬送された錠剤とカッターとの位置関係が一義的に定まらず、例えば等分に切断する場合でも、等分に切断できなくなる。

【0 0 0 6】

また、上下に動作される薄刃カッターにより錠剤を押し切る方式であったため、硬い錠剤の場合には破砕してしまう危険性があると共に、切断できた場合でも細かい欠片が発生して切断後の分量精度が悪化する欠点があった。

【 0 0 0 7 】

本発明は、係る従来の技術的課題を解決するために成されたものであり、錠剤の形状に係わらず、安定的に精度良く分割することができる錠剤分割機を提供するものである。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 の発明の錠剤分割機は、被処理錠剤を所定位置にて分割するものであって、回転して被処理錠剤を切断するための回転刃と、被処理錠剤を所定距離移動させることにより、当該被処理錠剤の長手方向が移動方向に対して直交するよう整列させる整列手段と、この整列手段にて整列された被処理錠剤をその長手方向から挟持することにより、回転刃に対して当該被処理錠剤の位置を合わせる挟持手段と、この挟持手段にて位置合わせされた被処理錠剤を回転刃まで搬送する搬送手段とを備えたことを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

請求項 2 の発明の錠剤分割機は、被処理錠剤を所定位置にて分割するものであって、回転して被処理錠剤を切断するための回転刃と、円弧状の通路を移動させることにより、被処理錠剤の長手方向が移動方向に対して直交するよう整列させる整列手段と、この整列手段にて整列された被処理錠剤を落下させ、被処理錠剤の長手方向が落下方向に対して直交するよう姿勢を修正する姿勢修正手段と、この姿勢修正手段にて姿勢を修正された被処理錠剤をその長手方向から挟持することにより、回転刃に対して当該被処理錠剤の位置を合わせる挟持手段と、この挟持手段にて位置合わせされた被処理錠剤を回転ローラ及びバネにより挟持して回転刃まで搬送する搬送手段とを備え、回転刃による切断時に被処理錠剤に加わる力が、回転ローラに作用するように回転刃と搬送手段の相対位置及び回転刃の回転方向を設定したことを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

上記本発明によれば、整列手段により被処理錠剤の長手方向を、その移動方向に対して直交するよう整列させ、この状態で被処理錠剤を挟持手段によりその長手方向から挟持して、回転刃に対する被処理錠剤の位置合わせを行った後、搬

送手段にて被処理錠剤を回転刃に搬送して切断するので、例えば楕円形の錠剤など、円形以外の形状の錠剤であっても、回転刃に搬送された際の被処理錠剤の回転刃に対する位置及び姿勢を一義的に確定することが可能となる。

【0011】

また、回転刃は押し切り式のカッターに比して安全且つ確実に被処理錠剤を切断することができるので、これらにより、その形状に係わらず、被処理錠剤を正確に分割することができるようになる。

【0012】

特に、請求項2の発明では整列手段にて整列された被処理錠剤を落下させて、被処理錠剤の長手方向が落下方向に対して直交するよう姿勢を修正する姿勢修正手段を設けたので、万一整列手段にて被処理錠剤の長手方向を移動方向に対して直交させることができなかつた場合にも、確実に被処理錠剤の姿勢を修正することが可能となる。

【0013】

また、被処理錠剤を回転ローラ及びバネにより挟持して回転刃まで搬送するようにし、且つ、回転刃による切断時に被処理錠剤に加わる力が、回転ローラに作用するように回転刃と搬送手段の相対位置及び回転刃の回転方向を設定したので、被処理錠剤或いは回転刃に無理な力が加わることも無くなり、円滑且つ確実に被処理錠剤を切断することが可能となるものである。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づき本発明の実施形態を詳述する。図1及び図2は本発明の錠剤分割機1の斜視図、図3は錠剤分割機1の概略平面図、図4は錠剤分割機1の縦断側面図である。実施例の錠剤分割機1は基本的には三枚の側壁2、3、4と、底壁6及び天壁7から成る箱状を呈しており、天壁7上に錠剤フィーダ8が取り付けられている。

【0015】

天壁7下方に架設された横板11上には、円弧状の通路壁12、13が設けられている。これら通路壁12、13は各円弧の中心を同一とされた状態で相互に

間隔を存して配設され、それらの間に円弧状の通路 1 4 を面成している。この通路 1 4 の一端部（向かって右端部）は前記錠剤フィーダ 8 のシュート部下方に設けられた邪魔板 9 下方に対応しており、他端部は前記側壁 2、3 間まで延在している。尚、この邪魔板 9 は省略しても差し支えない。

【0 0 1 6】

1 6 は横板 1 1 下面に取り付けられた回転腕モータ 1 7 によって駆動される回転腕であり、その回転中心は前記通路壁 1 2、1 3 の円弧の中心と同一とされている。また、この回転腕 1 6 は前記通路 1 4 の断面積と略同等の面積を有して通路 1 4 内に移動自在に配置された押板 1 6 A を備え、前記回転腕モータ 1 7 により回転され、それによって押板 1 6 A は通路 1 4 内を一端部から他端部に渡って所定速度で移動する。

【0 0 1 7】

1 8 はこの通路 1 4 の他端部に連続して設けられた斜面板（姿勢修正手段）であり、側壁 2、3 間にて手前側に低く傾斜して設けられている。また、この斜面板 1 8 と前記邪魔板 9 間の通路 1 4 内には邪魔板 1 9 が取り付けられている。この邪魔板 1 9 は外側の通路壁 1 2 に回転自在に取り付けられ、通路壁 1 2 から当該通路壁 1 2 の円弧の中心に向けて突出している。また、邪魔板 1 9 は変形可能な弾性素材にて構成されている。これら通路壁 1 2、1 3、通路 1 4、回転腕 1 6 や邪魔板 1 9 などて整列手段が構成される。尚、前記邪魔板 1 9 は、例えば通路壁 1 2 に回転自在に取り付けられた鉄板にて構成し、これをバネなどの付勢手段により通路壁 1 2 の円弧の中心に向けて付勢支持する方式でも差し支えない。

【0 0 1 8】

前記斜面板 1 8 の下端には同じ傾斜で連続して更に手前側が水平方向に滑らかに屈曲された保持用バネ（板バネ）2 1 が設けられ、側壁 2、3 間に取り付けられている。この保持用バネ 2 1 上にはシャッタ 2 2 が配設され、更にこのシャッタ 2 2 の少許下方（手前側）には保持用ローラ（回転ローラ）2 3 が側壁 2、3 間に回転自在に支持され、保持用バネ 2 1 上に位置している。

【0 0 1 9】

前記シャッタ 2 2 は、側壁 2 の外側に取り付けられたシャッタモータ 2 4 にク

リンク板 2 6、2 7 を介して連結されており、このシャッタモータ 2 4 が回転すると、クランク板 2 6、2 7 が構成するクランク機構により上下移動される。

【 0 0 2 0 】

また、前記保持用ローラ 2 3 は、側壁 2 の外側に取り付けられたローラモータ 3 1 に小プーリ 3 2、大プーリ 3 3 及びベルト 3 4 を介して連結されており、このローラモータ 3 1 が回転することによって、減速された低速で図 4 中時計回りに回転される。これら保持用ローラ 2 3 及び保持用バネ 2 1 にて搬送手段が構成される。

【 0 0 2 1 】

次に、3 6 は保持用ローラ 2 3 及び保持用バネ 2 1 の下方に位置して配設された回転刃である。この回転刃 3 6 は側壁 2 の外側に取り付けられた回転刃モータ 3 7 の回転軸に固定具 3 8 によって取り付けられており、側壁 2 と側壁 3 間の中央下方に対応して配置され、回転刃モータ 3 7 の回転によって図 4 中反時計回りに回転する。

【 0 0 2 2 】

この場合、保持用ローラ 2 3 及び保持用バネ 2 1 の中央部には上下に重複する位置に溝 2 3 A、2 1 A がそれぞれ形成されており、前記回転刃 3 6 の上部はこの溝 2 1 A、2 3 A を通過して保持用ローラ 2 3 内まで進入している。従って、回転刃 3 6 が保持用バネ 2 1 や保持用ローラ 2 3 に当たることはない。尚、5 4 は回転刃 3 6 の下方に配置された受け皿である。

【 0 0 2 3 】

一方、斜面板 1 8 及びそれに続く部分の保持用バネ 2 1 上の左右には一対の挟持板 4 1、4 2（挟持手段）が配設されている。各挟持板 4 1、4 2 はそれぞれスライド板 4 3、4 4 に固定されており、各スライド板 4 3、4 4 は基板 4 6 と左右の押さえ板 4 7、4 8 間に左右方向へ移動自在に保持されている。このとき、挟持板 4 1、4 2 は基板 4 6 の裏面側に位置し、スライド板 4 3、4 4 は基板 4 6 の表面側に位置している。そして、両者は基板 4 6 に形成された切欠 4 6 A、4 6 A 内で連結されている。

【 0 0 2 4 】

各スライド板 4 3、4 4 の向かって左端にはピン 4 3 A、4 4 A が立設されており、各ピン 4 3 A、4 4 A は基板 4 6 の裏面に取り付けられた挟持板モータ 5 1 の回転軸に取り付けられたロッド 5 2 両端の溝 5 2 A、5 2 B に回動且つ移動自在に係合されている。そして、これら挟持板 4 1、4 2、スライド板 4 3、4 4、基板 4 6、押さえ板 4 7、4 8、挟持板モータ 5 1、ロッド 5 2 などにより挟持機構 5 3 が構成されている。

【0025】

係る構成により、挟持板モータ 5 1 が回転してロッド 5 2 が図 6 中時計回りに回動すると、スライド板 4 3 は図 6 中において右方向へ、スライド板 4 4 は逆に左方向へ移動するため、挟持板 4 1、4 2 は相互に離間するよう移動する。逆に、挟持板モータ 5 1 が逆方向に回転してロッド 5 2 が図 6 中反時計回りに回動すると、スライド板 4 3 は図 6 中において左方向へ、スライド板 4 4 は右方向へ移動するため、挟持板 4 1、4 2 は相互に近接するよう移動することになる。但し、両挟持板 4 1、4 2 間の中心位置は側壁 2、3 間の中央に常時合致しているものとする。

【0026】

尚、以上の回転腕モータ 1 7、シャッタモータ 2 4、ローラモータ 3 1、挟持板モータ 5 1 はステッピングモータにて構成され、回転刃モータ 3 7 は DC モータにて構成されており、何れも図示しない制御装置によって制御されるものとする。

【0027】

以上の構成で次に動作を説明する。この場合、錠剤フィーダ 8 のシュート部からは楕円形（或いは長円形）の錠剤が一個ずつ排出されるものとする、排出された錠剤（被処理錠剤）M は邪魔板 9 に当たって方向を変え、通路 1 4 内に落下する。前記制御装置は、回転腕モータ 1 7 を駆動して回転腕 1 6 を図 3 中反時計回り（図 3 中矢印）に回動させる。

【0028】

これにより、回転腕 1 6 の押板 1 6 A は、落下した錠剤 M を邪魔板 1 9 に押し移動させて行く。この押板 1 6 A の押圧力により、錠剤 M は押板 1 6 A の面に

沿うように姿勢が変わり、その長手方向が移動方向に対して直交する向きとなる。

【 0 0 2 9 】

このように押板 1 6 A に押されて錠剤 M が次に邪魔板 1 9 に接触すると、邪魔板 1 9 はその弾性によって先端部から開きながら変形し、その反力として錠剤 M に斜め方向の力を加える。この邪魔板 1 9 からの力と、押板 1 6 A が押す力とのベクトルの総和により回転モーメントが発生するので、錠剤 M の姿勢はより一層その長手方向が移動方向に直交するように整列されることになる。

【 0 0 3 0 】

この邪魔板 1 9 を通過した錠剤 M は、やがて斜面板 1 8 に至り、そこを滑落する。この滑落の過程で錠剤 M の姿勢はその長手方向が落下方向に対して確実に直交するようになる。

【 0 0 3 1 】

尚、このとき挟持板 4 1、4 2 は相互に離間しているので、錠剤 M は両挟持板 4 1、4 2 間を滑落する。また、回転腕 1 6 はその後図 3 中時計回りに回転されて所定の待機位置に戻される。更に、シャッタ 2 2 は降下せられているため、斜面板 1 8 を滑落して来た錠剤 M はこのシャッタ 2 2 にせき止められる。

【 0 0 3 2 】

シャッタ 2 2 にせき止められた状態では、錠剤 M の中心位置は側壁 2、3 間の中央に合致しているとは限らない。そこで、前記制御装置は先ずシャッタモータ 2 4 を駆動させてクランク板 2 6、2 7 によりシャッタ 2 2 を上昇させる。次に、挟持板モータ 5 1 を駆動して前述の如く挟持板 4 1、4 2 を相互に近接するように移動させる。挟持板 4 1、4 2 が移動すると、やがて何れかの挟持板 4 1 或いは 4 2 に錠剤 M が当接し、その中心が側壁 2、3 の中央に合致した時点で、錠剤 M の長手方向の両端が挟持板 4 1、4 2 にて挟持されることになる。

【 0 0 3 3 】

この状態で錠剤 M の姿勢は、その長手方向が移動方向に対して直交し、且つ、その中心が側壁 2 と 3 の中央、即ち、回転刃 3 6 の延長線上に確実に位置決めされることになる。

【 0 0 3 4 】

次に、制御装置はローラモータ 3 1 により保持用ローラ 2 3 をゆっくりと回転させると共に（このとき回転刃 3 6 は回転している）、挟持板モータ 5 1 により両挟持板 4 1、4 2 を離間させる。

【 0 0 3 5 】

これにより、錠剤 M は保持用ローラ 2 3 に至り、当該保持用ローラ 2 3 と保持用バネ 2 1 とで上下から弾性的に挟持された状態で図 4 の左方向、即ち、回転刃 3 6 の方向にゆっくりと搬送される。回転刃 3 6 に至った錠剤 M はその中心が回転刃 3 6 の位置に合致されているので、中央が切断され、正確に二分されることになる。そして、二分された錠剤は保持用ローラ 2 3 により更に送り出されて受け皿 5 4 内に落下する。

【 0 0 3 6 】

このときの錠剤 M の厚みは保持用バネ 2 1 が下方に変形することによって吸収される。また、回転刃 3 6 は溝 2 1 A、2 3 A 内で回転していると共に、保持用ローラ 2 3 に押し付けた状態で回転刃 3 6 により切断するので、そのときの力は保持用バネ 2 1 では無く保持用ローラ 2 3 に加わることになる。

【 0 0 3 7 】

このように、本発明によれば円弧状の通路 1 4 内を回転腕 1 6 にて移動させることによって錠剤 M の長手方向を、その移動方向に対して直交するように整列させ、この状態で挟持板 4 1、4 2 によりその長手方向から挟持して、回転刃 3 6 に対する錠剤 M の中心の位置合わせを行った後、保持用ローラ 2 3 にて錠剤 M を回転刃 3 6 に搬送して切断するようにしているので、楕円形や長円形の錠剤など、円形以外の形状の錠剤であっても、回転刃 3 6 に搬送された際の錠剤 M の回転刃 3 6 に対する位置及び姿勢を一義的に確定できる。

【 0 0 3 8 】

また、回転刃 3 6 は押し切り式のカッターに比して安全且つ確実に錠剤 M を切断することができるので、これらにより、その形状に係わらず、錠剤 M を正確に分割することができるようになる。

【 0 0 3 9 】

特に、斜面板 1 8 を落下させ、錠剤 M の長手方向が落下方向に対して直交するよう姿勢を修正するので、万一通路 1 4 を出た時点で錠剤 M の長手方向を移動方向に対して直交させることができなかつた場合にも、確実に錠剤 M の姿勢を修正することが可能となる。

【 0 0 4 0 】

また、錠剤 M を保持用ローラ 2 3 及び保持用バネ 2 1 により挟持して回転刃 3 6 まで搬送するようにし、且つ、回転刃 3 6 による切断時に錠剤 M に加わる力が、保持用ローラ 2 3 に作用するように回転刃 3 6 と保持用ローラ 2 3 などとの相対位置及び回転刃 3 6 の回転方向を設定しているので、錠剤 M 或いは回転刃 3 6 に無理な力を加わることが無くなる。

【 0 0 4 1 】

尚、上記実施例では挟持板 4 1、4 2 をスライド板 4 3、4 4 のピン 4 3 A、4 4 A とロッド 5 2 との係合から成るクランク構造にて近接・離間駆動させたが、それに限らず、例えば図 8 及び図 9 に示す如く挟持板モータ 5 1 の回転軸に取り付けられたプーリ 6 6 とその側方のプーリ 6 7 間に掛け渡されたベルト 6 1 を基板 4 6 の左右に設け、往復するベルト 6 1 の往路に連結板 6 2 を介して前記スライド板 4 3 を固定し、復路に連結板 6 3 を介して前記スライド板 4 4 を固定する方式でも良い。尚、各図において図 1 ～図 7 と同一符号のものは同一とする。

【 0 0 4 2 】

係る構造によっても、挟持板モータ 5 1 の正転・逆転によってベルト 6 1 の往路・復路を左右反対方向に移動させ、前述同様の動作をスライド板 4 3、4 4 に与えることが可能となる。また、係るベルト駆動によらず、例えば歯車にて同様の動作を実現することもできる。尚、この実施例の場合には基板 4 6 は略直立しているが、これは斜面板 1 8 の距離寸法を前述の実施例に比較して短くしているためである。このように斜面板 1 8 を落下経路を短くすることによって、錠剤 M の落下距離を短縮することができる。

【 0 0 4 3 】

また、実施例では楕円形の錠剤を分割する場合について説明したが、通常の円形の錠剤の場合でも中心にて同様に二分可能であることは云うまでもない。

【 0 0 4 4 】

【発明の効果】

以上詳述した如く本発明によれば、整列手段により被処理錠剤の長手方向を、その移動方向に対して直交するように整列させ、この状態で被処理錠剤を挟持手段によりその長手方向から挟持して、回転刃に対する被処理錠剤の位置合わせを行った後、搬送手段にて被処理錠剤を回転刃に搬送して切断するので、例えば楕円形の錠剤など、円形以外の形状の錠剤であっても、回転刃に搬送された際の被処理錠剤の回転刃に対する位置及び姿勢を一義的に確定することが可能となる。

【 0 0 4 5 】

また、回転刃は押し切り式のカッターに比して安全且つ確実に被処理錠剤を切断することができるので、これらにより、その形状に係わらず、被処理錠剤を正確に分割することができるようになる。

【 0 0 4 6 】

特に、請求項 2 の発明では整列手段にて整列された被処理錠剤を落下させて、被処理錠剤の長手方向が落下方向に対して直交するよう姿勢を修正する姿勢修正手段を設けたので、万一整列手段にて被処理錠剤の長手方向を移動方向に対して直交させることができなかった場合にも、確実に被処理錠剤の姿勢を修正することが可能となる。

【 0 0 4 7 】

また、被処理錠剤を回転ローラ及びバネにより挟持して回転刃まで搬送するようにし、且つ、回転刃による切断時に被処理錠剤に加わる力が、回転ローラに作用するように回転刃と搬送手段の相対位置及び回転刃の回転方向を設定したので、被処理錠剤或いは回転刃に無理な力が加わることも無くなり、円滑且つ確実に被処理錠剤を切断することが可能となるものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施例の錠剤分割機の斜視図である。

【図 2】

本発明の錠剤分割機のもう一つの斜視図である。

【図 3】

本発明の錠剤分割機の概略平面図である。

【図 4】

本発明の錠剤分割機の縦断側面図である。

【図 5】

本発明の錠剤分割機の挟持機構の断面図である。

【図 6】

本発明の錠剤分割機の挟持機構部分の拡大正面図である。

【図 7】

本発明の錠剤分割機の保持用ローラと回転刃部分の拡大正面図である。

【図 8】

本発明の他の実施例の錠剤分割機の斜視図である。

【図 9】

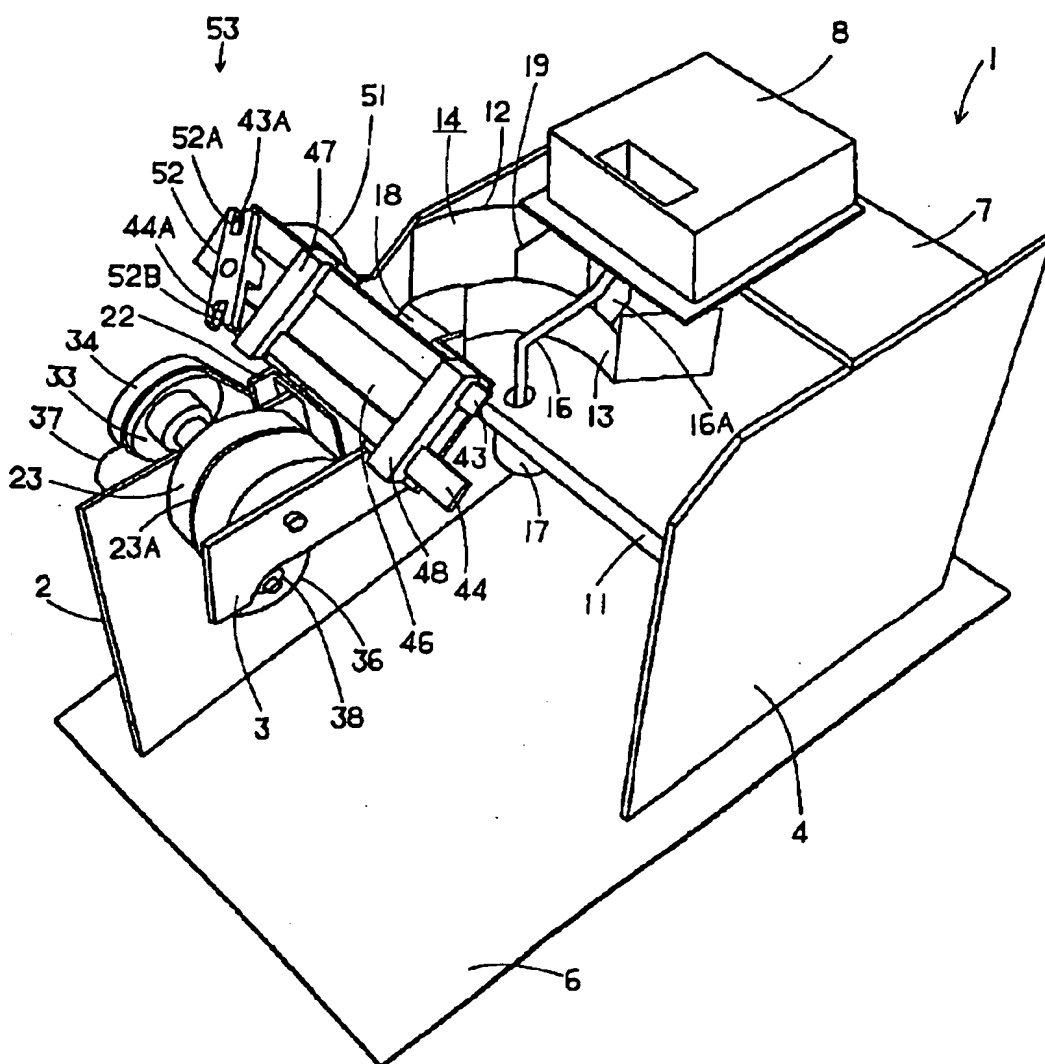
図 8 の錠剤分割機のもう一つの斜視図である。

【符号の説明】

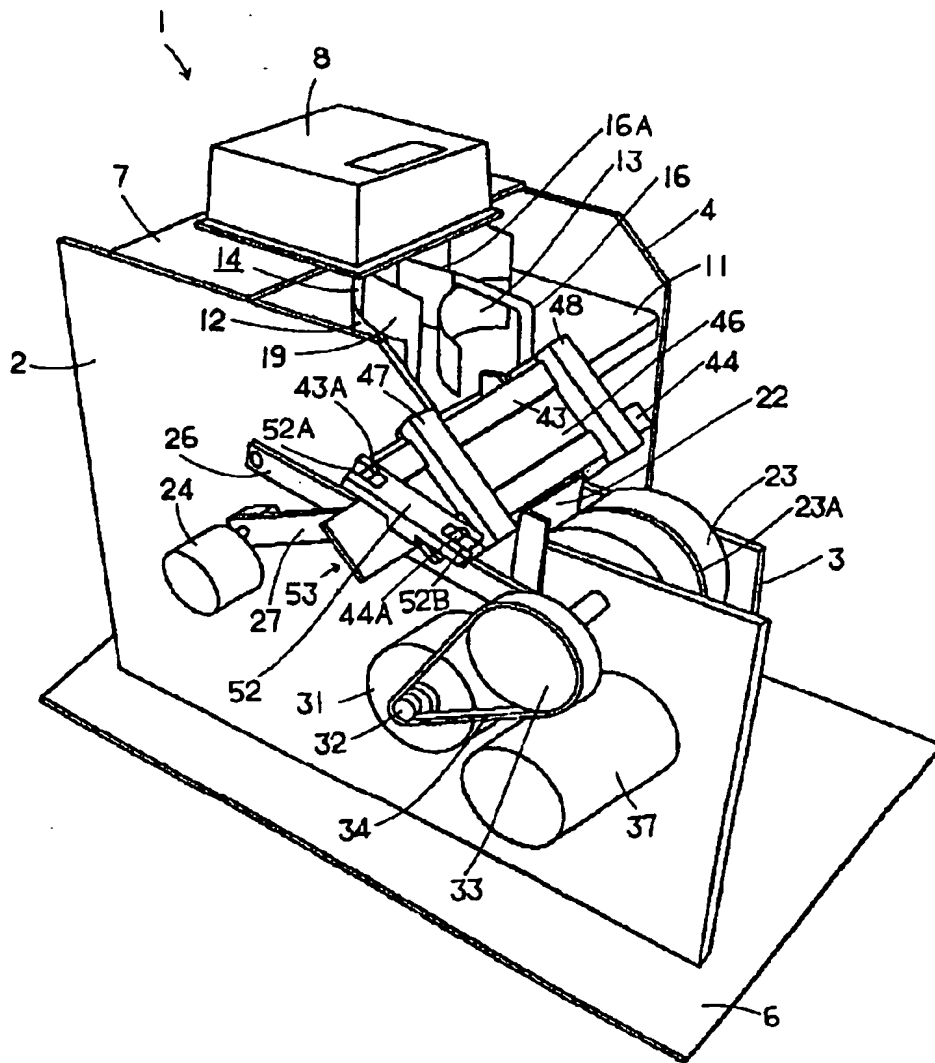
- 1 錠剤分割機
- 2、3、4 側壁
- 8 錠剤フィーダ
- 12、13 通路壁
- 14 通路
- 16 回転腕
- 16A 押板
- 18 斜面板
- 21 保持用バネ
- 22 シャッタ
- 23 保持用ローラ（回転ローラ）
- 36 回転刃
- 41、42 挟持板
- 53 挟持機構

【書類名】 図面

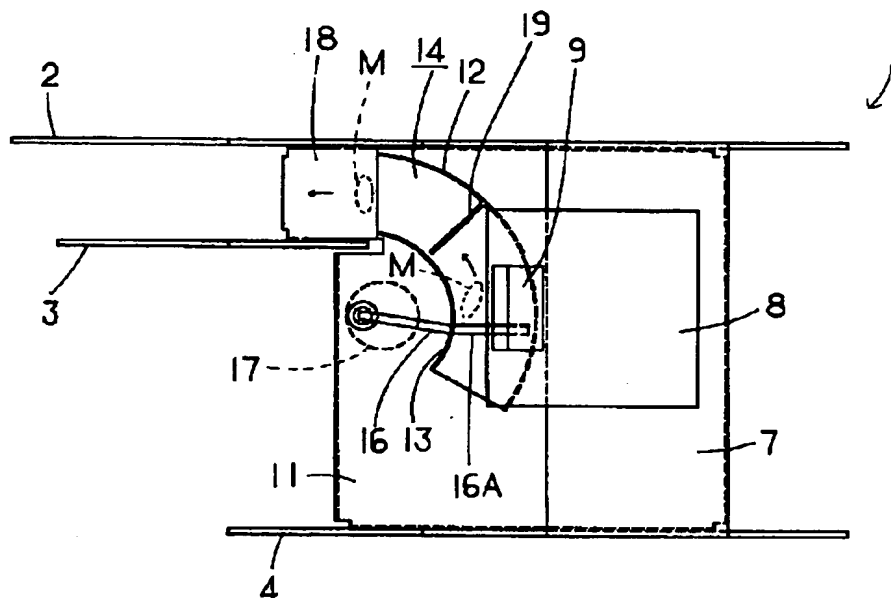
【図 1】



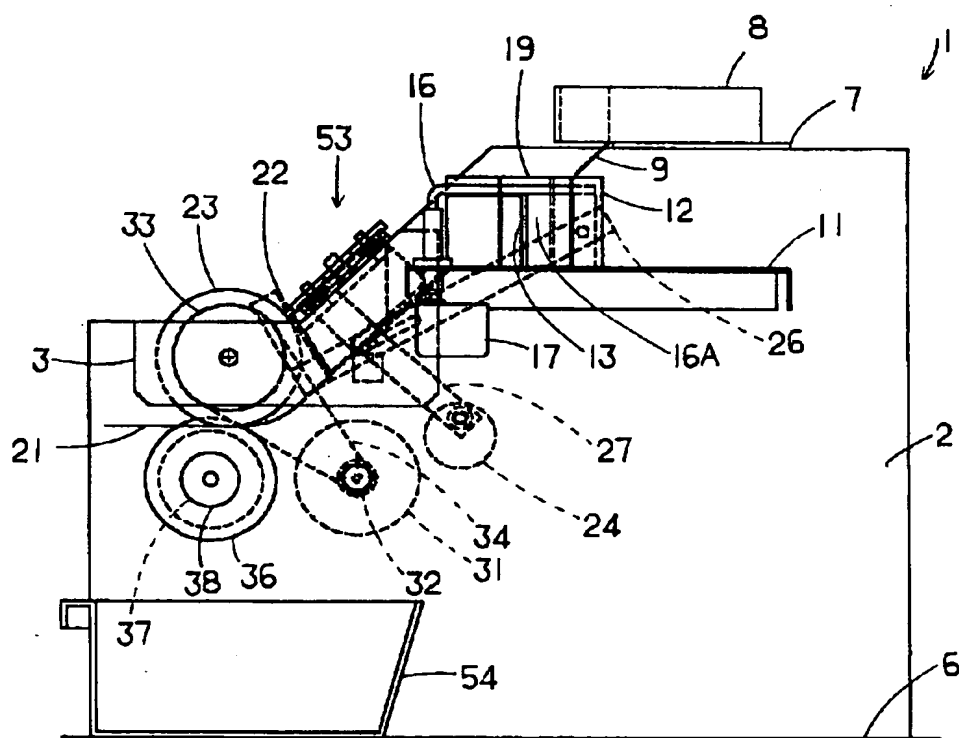
【図 2】



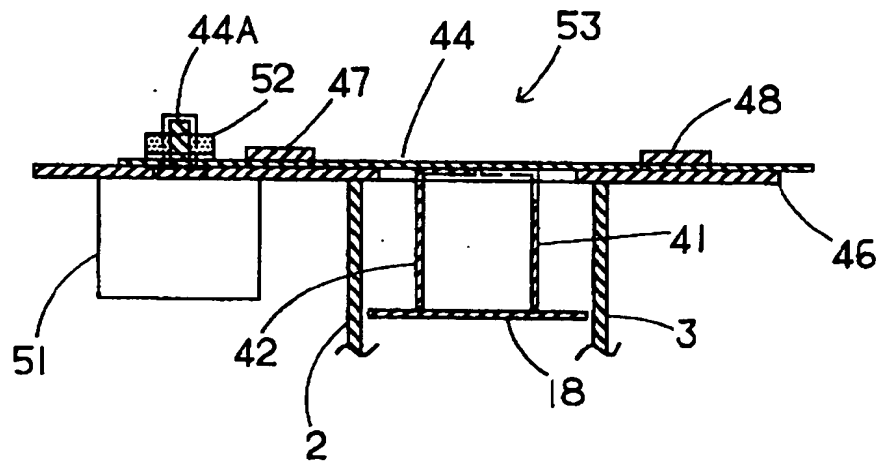
【図 3】



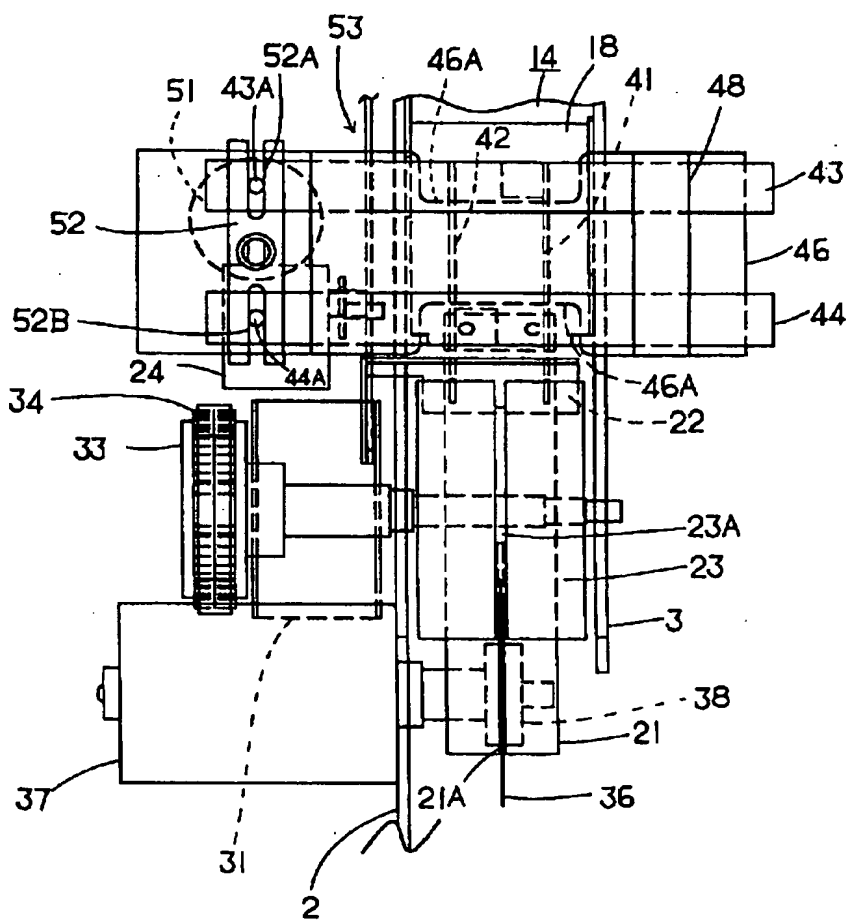
【図 4】



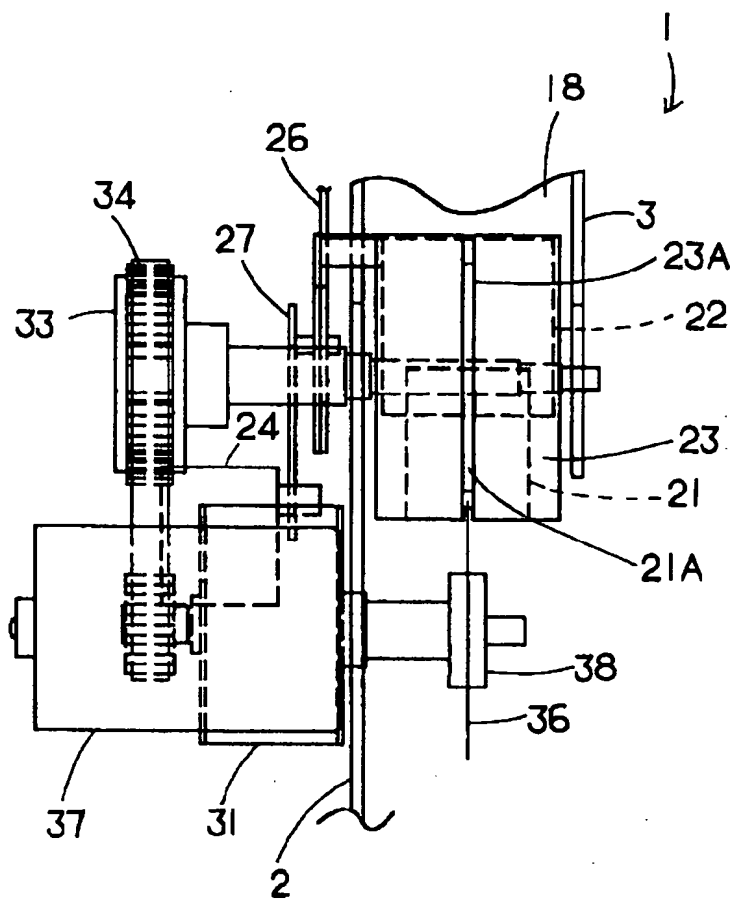
【図 5】



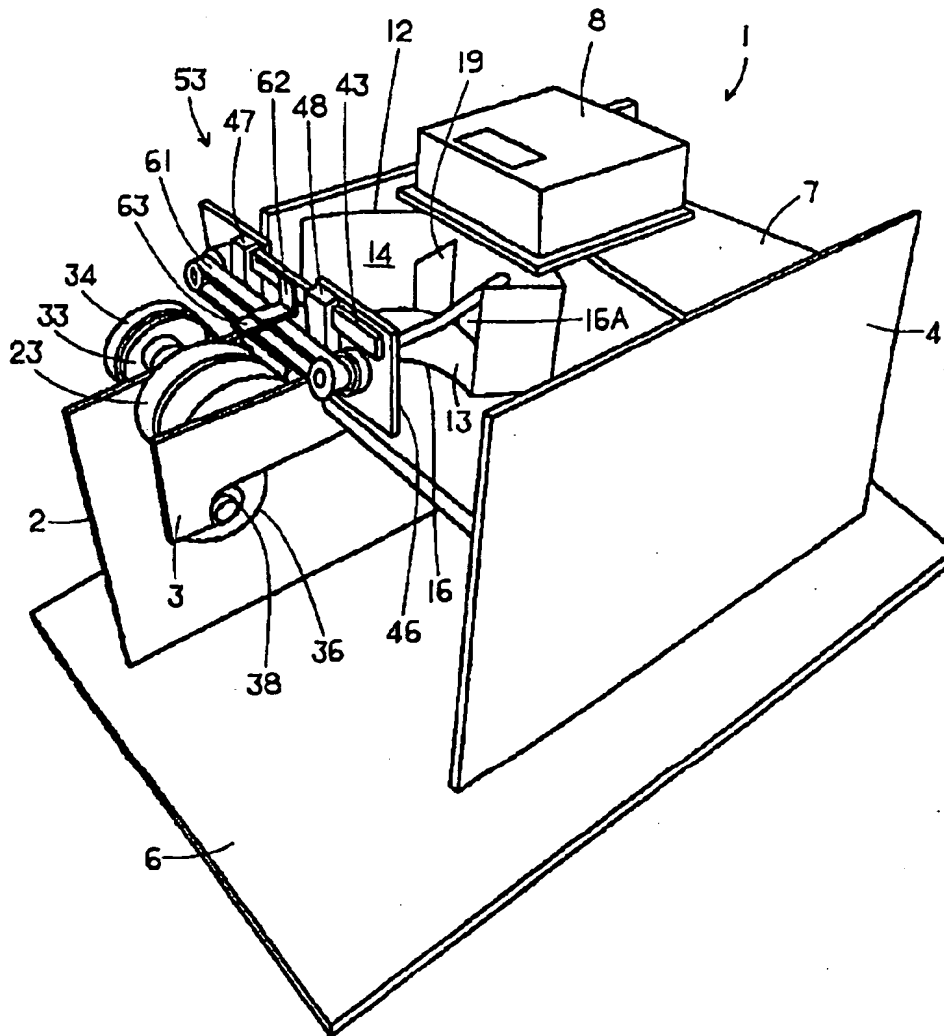
【図 6】



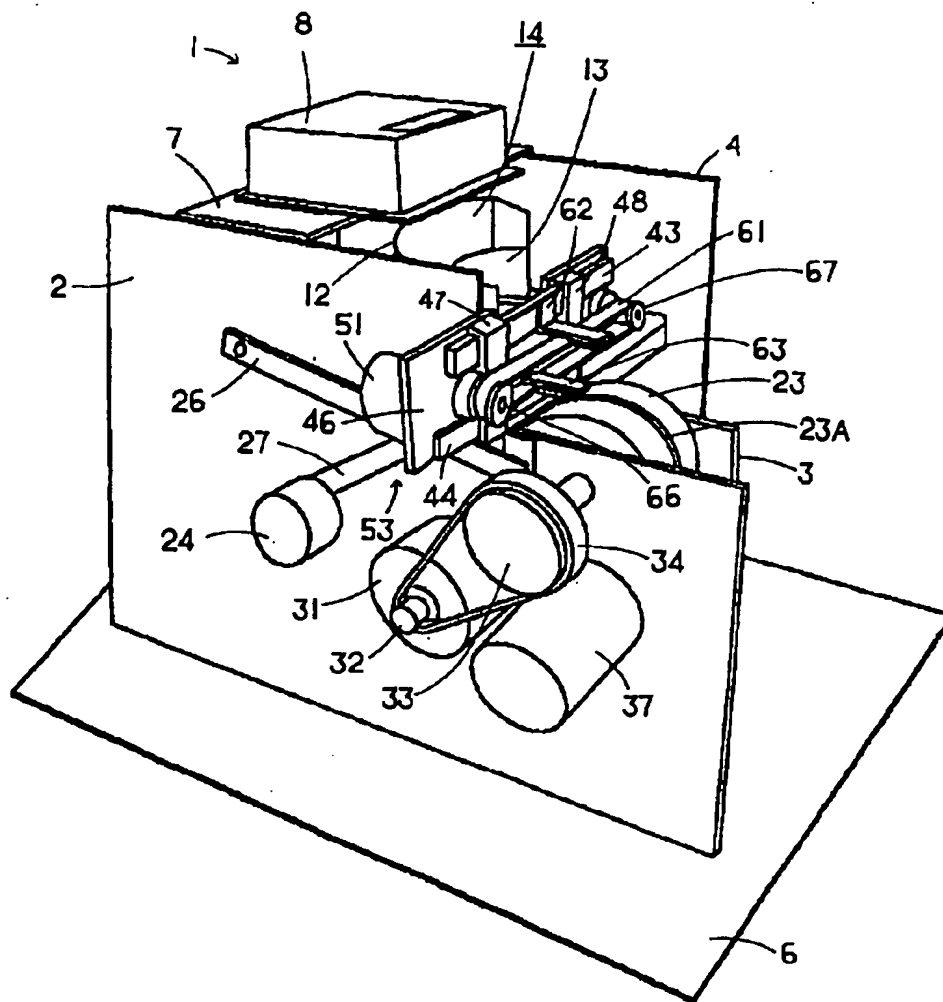
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 錠剤の形状に係わらず、安定的に精度良く分割することができる錠剤分割機を提供する。

【解決手段】 錠剤分割機 1 は、被処理錠剤を所定位置にて分割するものであって、回転して被処理錠剤を切断するための回転刃 3 6 と、被処理錠剤を所定距離移動させることにより、当該被処理錠剤の長手方向が移動方向に対して直交するよう整列させる整列手段と、この整列手段にて整列された被処理錠剤をその長手方向から挟持することにより、回転刃に対して当該被処理錠剤の位置を合わせる挟持手段と、この挟持手段にて位置合わせされた被処理錠剤を回転刃まで搬送する搬送手段とを備える。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001889]

1. 変更年月日	1993年10月20日
[変更理由]	住所変更
住 所	大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号
氏 名	三洋電機株式会社